






XRF Reader V3.8 操作マニュアル



■本書の内容

本書は、XRF Readerの概要と操作方法について説明しています。

■本書の表記

- 本マニュアルではOSの基本的な操作についての記述は省略してあります。
- []はメニュー名を表します。
- [ファイル]-[開く]はメニューからプルダウンメニューのコマンドを選択することを表します。
- < >は、ダイアログ中のボタンを表します。
- 『 』は、参照先を表します。
- 本書中の斜体の文字には、値が設定されることを意味します。
例 value="ファイル名"
- 本書では、項目の選択肢を以下のように表しています。
{A | B | C} : {} 中の | で区切られたA、B、Cのうち、どれか1つを選択します。
A [,B [,C]] : [] で囲まれた項目は、省略することができます。たとえば、左記の場合の選択肢は、次の3つです。
 - Aを選択する。
 - A、Bを選択する。
 - A、BおよびCを選択する。
- マークについて
本書で使用するマークについて説明します。
 -  このマークは、注意事項を表します。
 -  このマークは、役に立つ情報やヒントを表します。
 -  このマークは、制限事項を表します。

■商標について

XRFは、株式会社ユニリタの商標または登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載されている社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

目 次

1. XRF Readerの概要	1
1.1 XRF Readerとは	1
1.2 リモート処理について	1
1.3 ジョブファイル印刷について	1
1.4 コマンドラインオプションについて	1
2. 起動と終了	2
2.1 XRF Readerの起動	2
2.2 XRF Readerの終了	2
2.3 Windowsスタートメニュー	2
3. ファイルメニュー	3
3.1 開く	3
3.2 保存	3
3.3 XMLファイル出力	4
3.4 印刷	5
3.5 閉じる	7
3.6 終了	7
4. 検索メニュー	8
4.1 検索	8
4.2 次を検索／前を検索	10
5. 表示メニュー	11
5.1 ツールバー	11
5.2 表示倍率	11
5.3 先頭ページ	11
5.4 前ページ	11
5.5 次ページ	11
5.6 最終ページ	11
5.7 ページ指定	11
6. オプションメニュー	12
6.1 編集モード	12
6.2 再計算	13
6.3 環境設定	13
6.3.1 ユーザ環境設定	13
6.3.2 システム設定	14
6.3.3 ジョブファイル印刷設定	14
6.3.4 ログ設定	15
6.3.5 ログ閲覧	15
7. ヘルプメニュー	16
7.1 バージョン情報	16
8. XRF Readerの常駐機能	17
8.1 タスクトレイ	17
9. XRF Readerのコマンドラインオプション	18
9.1 起動引数一覧	18
9.2 終了値	23

目次

9.2.1	XRFファイル印刷.....	23
9.2.2	ジョブファイル印刷	24
10.	その他の情報について	25
10.1	外字の扱いについて	25
10.2	外国語・多言語の扱いについて	25

1. XRF Readerの概要

1.1 XRF Readerとは

XRF Readerは、ユニリタ独自形式の帳票ファイルフォーマットである「XRFファイル」を表示、印刷するためのツールです。また、複数のXRFファイルを内包した「ジョブファイル」を印刷する機能があります。

XRFファイルの表示では、帳票に含まれるフィールドの検索や、データ入力可能なフィールドのデータを編集することもできます。検索では、複数フィールドを組み合わせた「複合検索」もできます。

XRF Readerはプロセスを常駐させることができ、プロセスを常駐させることで、繰り返し帳票印刷を実行する運用では、プロセスの起動時間を短縮して印刷処理時間の効率を高めることができます。

1.2 リモート処理について

XRFでは、サーバ製品（ライブラリ）であるXRF Composerから常駐しているXRF Readerに対し処理要求を行う「リモート処理機能（XRF Remote Launch Broker）」を提供しています。

XRF Composerでは、XRF Readerに対するXRFファイルの表示／印刷の要求と、同じくジョブファイルの印刷の要求を行うためのAPIが提供されています。これにより、XRF Readerをプリントサーバとする帳票分散印刷環境を構築することができます。



- XRF Readerは起動する際に「54432～54532」の範囲から未使用のポートを割り当てます。リモート処理機能（XRF Remote Launch Broker）を使用する場合は、XRF Readerをあらかじめ固定のポート番号で常駐させる必要があります。常駐機能については『8. XRF Readerの常駐機能』を参照してください。また常駐機能の設定方法については、『6.3 環境設定』を参照してください。

1.3 ジョブファイル印刷について

ジョブファイルは、複数のXRFファイルの印刷をまとめて管理するためのファイルです。リモート処理による印刷にも対応しています。

ジョブファイルを使い印刷を行うことで、大量のXRFファイルの印刷順を守って印刷したり、ジョブファイル単位で印刷結果をレポートしたりすることができます。

1.4 コマンドラインオプションについて

XRF Readerは、コマンドラインから表示する帳票を指定したり、画面を使用しないで印刷する機能をサポートしたりしています。使用できるコマンドラインオプションは『9. XRF Readerのコマンドラインオプション』を参照してください。

2. 起動と終了

XRF Readerの起動と終了方法について説明します。

2.1 XRF Readerの起動

タスクバーにある[スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]-[XRF Reader 3.8]-[XRF Reader]を選択すると、XRF Readerが起動します。



2.2 XRF Readerの終了

起動しているXRF Readerのメニューから[ファイル]-[終了]を選択すると、XRF Readerは終了します。ウィンドウ右上にある「×」ボタンをクリックしても同様の動作となります。Windowsのスタートメニューから終了することもできます。

2.3 Windowsスタートメニュー

Windowsのスタートメニューから[プログラム]-[XRF Reader 3.8]を選択すると、次のメニューが表示されます。

- XRF Reader

XRF Readerのウィンドウを起動します。

- XRF Readerプロセスの再起動

常駐しているXRF Readerプロセスの再起動を行います。

処理中の要求（印刷など）がすべて終わってから、プロセスを終了し、再起動します。

- XRF Readerプロセスの終了

常駐しているXRF Readerのプロセスを終了します。

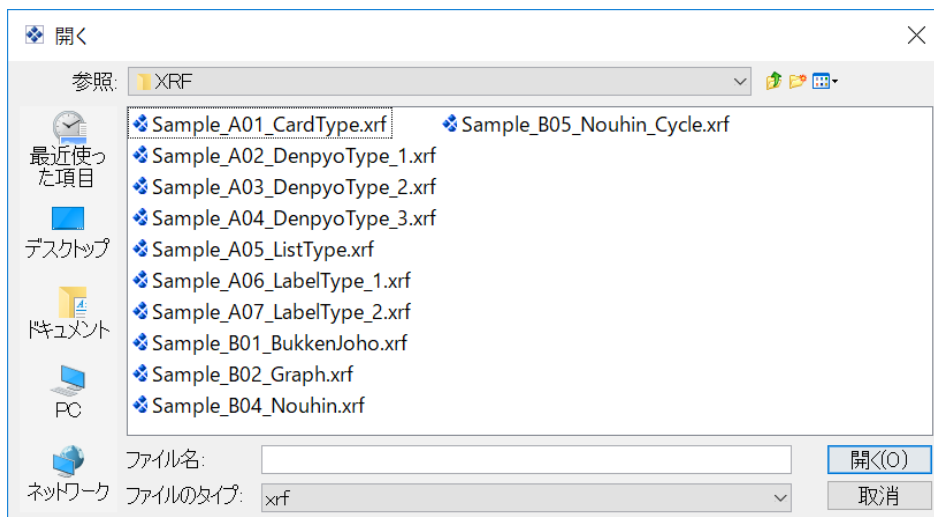
処理中の要求（印刷など）がすべて終わってから、プロセスを終了します。

3. ファイルメニュー

ファイルメニューには、ファイル操作に関するコマンドがあります。

3.1 開く

既存のXRFファイルを開きます。[ファイル]-[開く]を選択すると開くダイアログが表示されます。

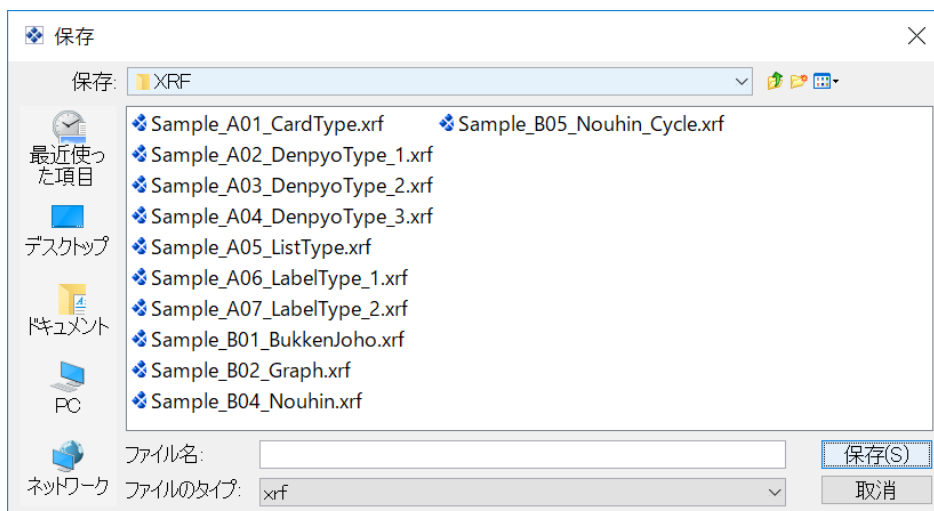


一覧にあるファイルをクリックして選択し、<開く>をクリックすると、ファイルが読み込まれます。

開くダイアログでは、任意のフォルダへ移動することができます。また、開くダイアログに表示されるフォルダの初期値は、[オプション]-[環境設定]で指定することができます。

3.2 保存

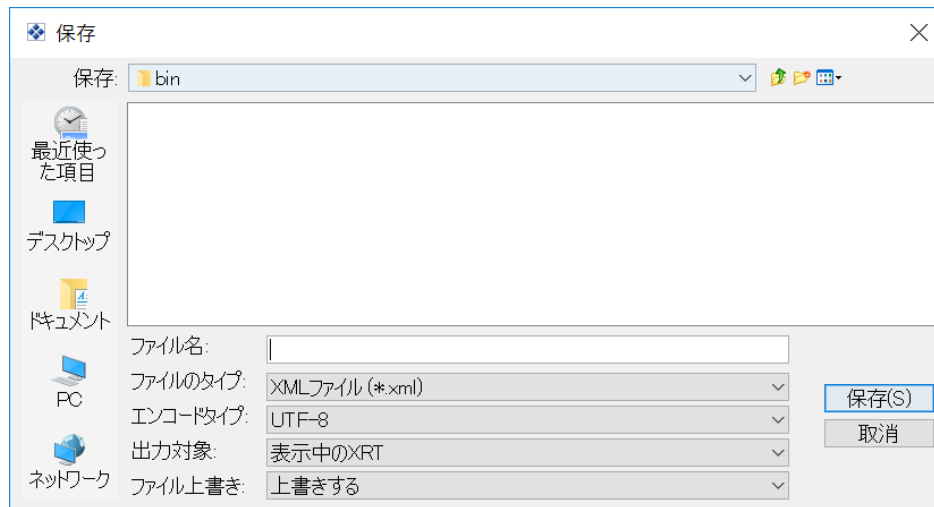
現在開いているXRFファイルに名前を付けて保存します。[ファイル]-[保存]を選択すると保存ダイアログが表示されます。保存許可フラグがオフのXRFファイルを開いている場合、このコマンドを選択することはできません。



「ファイル名」に新しいファイル名を入力して<保存>をクリックします。拡張子には、.xrfが自動的に付加されます。

3.3 XMLファイル出力

現在開いているXRFファイルのユーザデータをXMLファイルとして保存します。[ファイル]-[XMLファイル出力]を選択すると保存ダイアログが表示されます。保存許可フラグがオフのXRFファイルを開いている場合、このコマンドを選択することはできません。



保存ダイアログでは、以下のオプションを指定できます。

ファイル名

出力するファイルの名前を指定します。

ファイルのタイプ

ダイアログ上部のリストに表示するファイルのタイプを指定します。

エンコードタイプ

出力ファイルのエンコードをUTF-8、Shift-JIS、EUC-JPの中から選択できます。

出力対象

表示中のXRTファイルのユーザデータのみを出力するか、XRFに含まれるすべてのXRTファイルのユーザデータを出力するかを指定します。

ファイル上書き

「ファイル名」で指定したファイルがすでに存在する場合、上書きするか、上書きしないかを指定します。

<保存>

保存を実行します。

<取消>

保存せず、ダイアログを閉じます。

3.4 印刷

現在開いているXRFファイルを印刷します。[ファイル]-[印刷]を選択すると印刷設定ダイアログが表示されます。印刷が許可されていないXRFファイルを開いた場合、このコマンドを選択することはできません。

印刷設定

プリンタの選択
プリンタ: TestPrinter

印刷範囲
☒ すべて
☐ 現在のフォーム
☐ ページ指定

部数設定
部数: 1
☐ 部単位で印刷

帳票印刷設定
ズーム: 100 % 両面指定: 片面
オフセット X: 0.00 mm カラーモード: モノクロ
Y: 0.00 mm

フォーム印刷設定
☐ 全体に設定 ☒ 個別設定

用紙設定
フォーム名: Graph023
用紙サイズ: デザインサイズ
用紙向き: 横
給紙トレイ: 指定なし
☐ プレプリント印刷

印刷 キャンセル

印刷設定ダイアログでは、以下のオプションを指定できます。

- プリンタ設定

出力先プリンタを指定します。

プリンタ

OSに登録されているプリンタが一覧表示されるので、使用するプリンタを選択します。

- 印刷範囲

印刷範囲を指定します。

すべて

表示している帳票の全ページを印刷します。

現在のフォーム

現在表示しているフォームのページを印刷します。

ただし、1フォームしか含まない帳票の場合は、無効になっています。

ページ指定

印刷するページの範囲を指定して印刷します。半角数字で、ページ番号をカンマ (,) で区切って指定するか、開始ページと終了ページをハイフン (-) でつなげて指定します。

- **部数設定**

印刷部数を指定します。

部数

印刷する部数を指定します。

部単位で印刷

このチェックボックスがオンの場合、ページごとに部数分ずつ印刷します。

「部数」に「2」以上を指定した場合、有効になります。

- **帳票印刷設定**

帳票全体に指定する印刷設定です。

ズーム

印刷倍率を指定します。

両面指定

片面印刷と両面印刷（短辺とじ、長辺とじ）が選択できます。

オフセット

印刷開始位置（Xは左端からの位置、Yは上端からの位置）のオフセットを指定します。mm単位で、有効値は-50.00～50.00までです。

フォーム設定のマージンに、更に追加される形で反映されます。

カラーモード

選択されたプリンタの対応しているカラーモードが表示され、その中から選択できます。

- **フォーム印刷設定**

帳票中の各フォームに対し個別に指定できる印刷設定です。

全体に設定

下記の用紙設定を帳票全体に対して行います。

個別設定

下記の用紙設定を帳票中の個々のフォームに対して設定を行えるようになります。

用紙設定

帳票または個々のフォームに対して設定を行います。

- **フォーム名**

帳票内のフォーム名の一覧が表示され、その中から選択できます。

選択したフォームについてのみ以下の設定が反映されます。

- **用紙サイズ**

出力用紙サイズを指定します。

「デザインサイズ」を選択した場合は、フォーム作成時に設定された用紙サイズが反映されます。

- **用紙向き**

用紙の向きを指定します。「XRT（フォームで指定された向き）」、「縦」、「横」から選択できます

- **給紙トレイ**

選択されたプリンタの対応している給紙トレイが表示され、その中から選択できます。

- プレプリント印刷

プレプリント印刷を実行します。

ユーザフィールド（文字列、数値、日付）、ユーザイメージ、ユーザバーコード、グラフ、システムフィールド（ページ番号）のみ印刷されます。枠線などは印刷しません。

<印刷>

印刷を実行します。

<キャンセル>

印刷を行わず、ダイアログを閉じます。

3.5 閉じる

[ファイル]-[閉じる]を選択すると開いているXRFファイルを閉じます。

3.6 終了

[ファイル]-[終了]を選択すると、XRF Readerは終了します。

4. 検索メニュー

検索メニューには、開いている帳票に含まれるフィールドの検索に関するコマンドがあります。

4.1 検索

開いている帳票に含まれるフィールドの値を検索します。

[検索]-[検索]を選択すると検索ダイアログが表示されます。

検索ダイアログでは、以下のオプションを指定できます。

- 検索フィールド

▼をクリックするとXRFファイル内にあるデータフィールド名の一覧が表示されるので、対象のデータフィールドを選択します。

その際、帳票上では対象のデータフィールドが赤枠で囲まれます。

また、検索フィールドの右端にはデータの属性（文字、数値、日付）が表示されます。

「全て」を選択した場合、全データフィールドを対象とする検索となります。

- 値

検索する文字列、または数値や日付を指定します。何も指定しなければ、空白フィールドを検索することができます。

- 条件

検索する条件を指定します。フィールドの属性によって選択できる項目が変化します。

フィールドの属性が「数値」または「日付」の場合、以下の項目を選択することができます。

「等しい」、「等しくない」、「以上」、「以下」、「より大きい」、「より小さい」

フィールドの属性が「文字」または「全て」の場合、以下の項目を選択することができます。

「を含む」、「を含まない」、「で始まる」、「で始まらない」、「で終わる」、「で終わらない」

検索

検索フィールド	値	条件	接続
1. FURIGANA (文字) ▾	A	を含む ▾	▾

検索対象ページ: 1 から 2

検索方向: ☐ 戻る ☒ 進む

検索 クリア 取消

条件メニュー:

- を含む
- 含まない
- で始まる
- で始まらない
- で終わる
- で終わらない

● 接続

複数の項目で検索する場合、「且つ」または「又は」を指定します。

値 条件 接続

a 含む ▾ ▾

検索方向 ☐ 戻る ☒ 進む

接続メニュー:

- 且つ
- 又は

検索条件が追加されます。検索条件は、最大5つまで追加できます。

検索

	検索フィールド	値	条件	接続
1.	全て ▾	a	含む ▾	且つ ▾
2.	全て ▾		含む ▾	且つ ▾
3.	全て ▾		含む ▾	且つ ▾
4.	全て ▾		含む ▾	且つ ▾
5.	全て ▾		含む ▾	▾

検索対象ページ: 1 から 2

検索方向: ☐ 戻る ☒ 進む

検索 クリア 取消

● 検索対象ページ

検索する範囲をページで指定します。

● 検索方向

進む

現在位置より後方に検索を実行します。

戻る

現在位置より前方に検索を実行します。

● ボタン

<検索>

指定した条件で検索を開始します。

<クリア>

指定した条件を削除します。

<取消>

検索を行わずにダイアログを閉じます。

4.2 次を検索／前を検索

[検索]-[次を検索]は、一度検索した条件で、現在位置からページの後方へ次の候補を検索します。

[検索]-[前を検索]は、一度検索した条件で、現在位置からページの前方へ次の候補を検索します。

5. 表示メニュー

表示メニューには、開いている帳票の表示倍率、表示ページなどに関するコマンドがあります。

5.1 ツールバー

ツールバーの表示／非表示を指定します。コマンドにチェックマークがついている場合は表示、チェックマークがはずれている場合は非表示です。



5.2 表示倍率

開いているファイルの表示倍率を変更します。

表示倍率は、25%, 50%, 75%, 100%, 150%, 200%から選択できます。

5.3 先頭ページ

開いているファイルが、複数ページで構成されている場合、先頭ページを表示します。

5.4 前ページ

開いているファイルが、複数ページで構成されている場合、前のページを表示します。

5.5 次ページ

開いているファイルが、複数ページで構成されている場合、次ページを表示します。

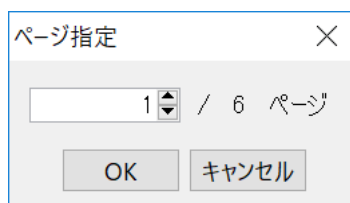
5.6 最終ページ

開いているファイルが、複数ページで構成されている場合、最終ページを表示します。

5.7 ページ指定

指定したページを表示します。

[表示]-[ページ指定]を選択するとページ指定ダイアログが表示されます。



▼▲をクリックするかテキストボックスに直接ページ番号を入力して、<OK>をクリックすると、指定したページが表示されます。

6. オプションメニュー

XRF Readerの動作環境の設定、入力可能な文字フィールドを編集するための画面切り替えを行います。

6.1 編集モード

入力可能に設定されたフィールドの編集を行う際、このコマンドを選択します。コマンドを選択し編集モードが有効になった場合に、コマンドにはチェックマークが付き、編集モードとなります。

編集モードでは、ツールバーは以下のように変更され、編集可能な領域が「ハイライト」で指定した色で表示されます。



- ユーザフィールドの編集

ハイライトされた各フィールドをクリックすると入力可能となるので、編集してください。

たとえば、日付フィールドに漢字を入力するなど、無効なデータを入力した場合、エラーメッセージが表示され、入力を取り消すかまたは、再編集するかを選択できます。

また、編集したフィールドと同じ要素名のフィールドや、当該フィールドを参照しているフィールドの値も、連動して変更されます。

- ハイライト色の変更

入力可能なフィールドの色を変更する場合は、ツールバーの「ハイライト」をクリックして表示される一覧から、色を選択します。

6.2 再計算

フィールドの演算を再計算します。

編集モードを解除する際、自動的に再計算が実行されますが、このコマンドを選択すると、編集モードのまま再度、演算を実行し、たとえば、0除算などの不正なデータが入力されていた場合は、エラーメッセージが表示されます。

6.3 環境設定

[オプション]-[環境設定]を選択すると環境設定ダイアログが表示されます。



<確認>をクリックすると、各設定を反映します。この設定は、XRF Readerを終了しても保持されます。設定項目には、設定を反映するためにXRF Readerの再起動が必要なものがあります。

<キャンセル>をクリックすると、変更を破棄して、ダイアログを閉じます。

6.3.1 ユーザ環境設定

常驻機能などの環境設定を行います。常驻機能については『8. XRF Readerの常驻機能』も参照してください。

● ポート番号

XRF Readerが使用するポート番号を指定します。ここで「0」を指定した場合は、XRF Readerの起動時に自動で使用するポートが割り当てられます。通常は「0」を指定しますが、リモート処理を利用する場合には0以外の固定のポート番号を指定する必要があります。

固定のポート番号を指定する場合は、インストールされている他のアプリケーションが使用しているポートとの競合に注意してください。XRF Readerの起動時に、固定に指定したポート番号がすでに他のアプリケーションで使用されていた場合、自動で使用するポートが割り当てて起動します。

設定可能範囲は0～65535です。

● リモートからの要求許可

リモートからの要求を許可するかを選択します。リモート処理を利用する場合に許可を選択します。

許可を選択した場合、常驻フラグの設定に関わらずXRF Readerのプロセスは常驻します。

● 常驻フラグ

許可を選択すると常驻機能が有効になり、XRF Readerのプロセスを常驻させることができるようになります。

ります。

- **タスクトレイに表示**

許可を選択しかつ常駐化フラグが許可になっている場合に、タスクトレイにアイコンを表示します。

- **使用メモリサイズ (MB)**

XRF Readerが使用するメモリの上限値を指定することができます。

指定可能範囲は512～1024です。

6.3.2 システム設定

基本動作に関する設定を行います。

- **XRFファイルの置いてあるフォルダ**

XRFファイルの保存されているフォルダを指定します。[ファイル]-[開く]で表示される開くダイアログでは、ここで指定したフォルダを初期値として表示します。

<参照>をクリックすると、開くダイアログが表示されるので、フォルダを選択してください。

- **検索フィールドの強調 (背景色)**

フィールドの検索結果を強調表示する色を指定します。

- **空白フィールドの強調 (枠色)**

フォーカスが当たった空白フィールドの枠の色を指定します。

- **動作モード**

XRF Readerの動作モードを指定します。

- オンメモリモード： 内部処理で保持するフィールドのデータをメモリ上に保持するモードです。

- 一時ファイルモード： フィールドのデータを一時ファイルを使い保持するモードです (初期設定値)。

一時ファイルモードのほうが、より容量の大きなXRFファイルを開くことができます。オンメモリモードの場合、容量の大きなXRFファイルを開く際にメモリ不足で失敗する可能性が高くなります。

一時ファイルとして出力されたファイルは通常自動で削除されますが、XRF Readerのプロセスが強制終了された場合に自動的に削除されずに残ってしまいます。この場合、手動で削除する必要があります。

- **一時ファイル出力先**

動作モードに一時ファイルモードを指定し、かつデフォルトの設定を使わない場合に設定が可能となります。

225文字以内で指定してください。

- **デフォルトを使用する (チェックボックス)**

一時ファイル出力先の指定を省略します。デフォルトはOSの一時ファイル出力先に出力します。

6.3.3 ジョブファイル印刷設定

ジョブファイル印刷に関する設定を行います。

- **ログレポート出力先**

ログレポートの出力先を指定します。

- **XRFファイル一時解凍先**

ジョブファイル印刷時に、ジョブファイルに内包されたXRFファイルの一時解凍先のフォルダを指定します。解凍されたXRFファイルは印刷終了後に削除されます。ただし、印刷エラーとなったXRFファイルは、このフォルダの直下にerrorフォルダが作成され、そこに残されます。

- **ログレポート最大出力数**

ジョブファイル印刷では、1つジョブファイルを印刷する度にログレポートのファイルを出力します。この設定ではその出力ファイル数の上限値を指定します。指定範囲は、1～65535です。

ログレポートは、指定値を超えた場合、古いファイルから削除されます。

6.3.4 ログ設定

ログの設定を行います。

- **ログ出力レベル**

出力するログメッセージのレベルを指定します。下記の値が設定可能です。

- ALL： 全てのログメッセージを出力します
- FATAL： 致命的なエラーメッセージをログに出力します
- ERROR： エラーメッセージと致命的なエラーメッセージを出力します。
- WARN： 警告メッセージとエラーメッセージ、致命的なエラーメッセージを出力します。
- INFO： 情報メッセージと警告メッセージ、エラーメッセージ、致命的なエラーメッセージを出力します。
- DEBUG： デバッグログと情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージ、致命的なエラーメッセージを出力します。
- OFF： ログメッセージを出力しません。

- **ログ出力フォルダ**

ログの出力フォルダを指定します。

(「ファイル名」と合せて合計254文字以内で指定してください)

- **ファイル名**

ログファイルの名前を指定します。

(「ログ出力フォルダ」と合せて合計254文字以内で指定してください)

- **ファイルサイズ (MB)**

ログファイルのファイルサイズの上限値を指定します。MB (メガバイト) 単位で指定します。

指定可能範囲は1～1000です。

- **バックアップ数**

ログファイルがファイルサイズを超えるとバックアップファイルが作成されます。この設定では、そのログファイルのバックアップ数の上限値を指定できます。

指定可能範囲は1～10です。

6.3.5 ログ閲覧

この画面では出力したログメッセージを確認できます。

- **表示ログ**

ログ設定画面で設定されているフォルダ内のログファイルが選択できます。

- **ウィンドウ幅で折り返し (チェックボックス)**

ログメッセージをウィンドウ幅で折り返して表示します。

7. ヘルプメニュー

ここではXRF Readerのヘルプ情報を参照できます。

7.1 バージョン情報

ご使用のXRF Readerのバージョン情報を表示します。

8. XRF Readerの常駐機能

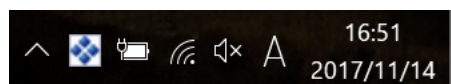
XRF Readerは、環境設定によりプロセスを常駐させることが可能です。常駐機能を有効にすることで、XRFファイルの閲覧と印刷を高速に実行できます。また、常駐させることでリモートからの印刷要求も可能になり、プリントサーバとして利用できるようになります。


この機能を使用するためには、環境設定で常駐を許可する設定を行う必要があります。また、リモート処理でXRF Readerを使用する場合には、常駐を許可するだけでなくリモートからの要求を許可するように設定する必要があります。

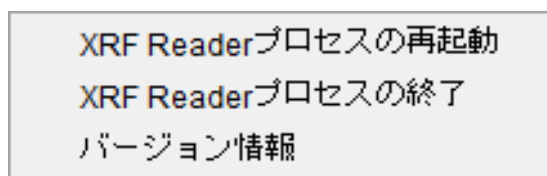
なお、XRF Readerのインストール時に、インストーラの「オプション選択」で「スタートアップに登録する」を選択した場合はこの常駐機能が有効になっています。

8.1 タスクトレイ

常駐機能を有効にした場合に、合せてタスクトレイのアイコン表示を有効にすることができます。その場合、タスクトレイには次のアイコンが登録されます。



上記タスクトレイのアイコンを右クリックすると次のメニューが表示されます。



- XRF Readerプロセスの再起動

常駐しているXRF Readerプロセスの再起動を行います。

Windowsの設定変更（デフォルトプリンタの変更、プリンタの追加など）を反映させる場合に、このコマンドを実行してください。終了を行う前までの要求（印刷など）がすべて終わってから、プロセスを終了します。

- XRF Readerプロセスの終了

常駐しているXRF Readerのプロセスを終了します。

終了を行う前までの要求（印刷など）がすべて終わってから、プロセスを終了します。

- バージョン情報

ご使用のXRF Readerのバージョン情報を表示します。

9. XRF Readerのコマンドラインオプション

XRF Readerは、コマンドラインオプションをサポートしています。コマンドラインオプションを使用することで、コマンドラインから表示する帳票を指定して開くことや、画面を使用しないで帳票を印刷することが可能です。

9.1 起動引数一覧

ここでは、この機能を使用する際に利用できる引数について説明します。引数が指定されていない場合は、XRFファイル生成時に指定された値が使用されます。

起動プログラムは、次のファイルです。

インストールディレクトリ¥bin¥ xrfreader.exe

引数属性名	コマンド
識別子	(なし)
説明	必須。第1引数に指定します。
指定方法	第1引数にコマンドを指定します。 表示コマンド：コマンドに「xrfview」を指定します。 印刷コマンド：コマンドに「print」を指定します。
備考	コマンドラインオプションを使用して帳票を印刷する場合、以下のようにコマンドを実行します。 xrfreader.exe△print△[XRFファイルパス]

引数属性名	XRFファイル
識別子	(なし)
説明	必須。第2引数に指定します。 指定できるファイル数は1です。 複数のファイルが指定された場合は、最初のファイルを有効とします。
指定方法	任意のXRFファイルをダブルクォートで囲みます。ファイルのパスは、絶対パスまたはインストールされた xrfreader.exeが存在するフォルダからの相対パスが指定可能です。
備考	

引数属性名	ユーザ名
識別子	-UN
説明	オーナー保護のある場合は必須。 オーナー保護なしの場合の指定は無視します。
指定方法	半角英数字
備考	オーナー保護属性

引数属性名	パスワード
識別子	-PW
説明	オーナー保護のある場合で、パスワードが指定されている場合は必須。 パスワードが設定されていないオーナー保護の場合は、空文字(" ")を指定するか、または識別子自体を指定しないかのどちらの入力も可能です。識別子だけの入力は空文字の指定とはみなしません。 オーナー保護なしの場合の指定は無視します。
指定方法	半角英数字
備考	オーナー保護属性

引数属性名	プリンタ名
識別子	-PC
説明	印刷を行うプリンタのプリンタ名を指定します。 この引数が指定された場合、起動直後に検索し、見つからなければ不正な指定とします。 またJointBaseと組み合わせて使用する場合は、無視されます。
指定方法	任意プリンタの名称
備考	印刷属性

引数属性名	用紙サイズ
識別子	-PP
説明	用紙名称またはXRTのデザインサイズに従うかを指定します。
指定方法	<0,XRT> : デザインサイズ <1,A3> : A3用紙 <2,A4> : A4用紙 <3,A5> : A5用紙 <4,B4> : B4用紙 (ISO規格) <5,B5> : B5用紙 (ISO規格) <6,JIS_B4> : B4用紙 (JIS規格) <7,JIS_B5> : B5用紙 (JIS規格)
備考	印刷属性

引数属性名	用紙向き
識別子	-PT
説明	用紙向きを指定します。
指定方法	<0,XRT> : デザインサイズ <1,VERT> : 縦 <2,HORI> : 横
備考	印刷属性

引数属性名	出力ページ指定
識別子	-PG
説明	印刷出力ページを指定します。 ページ番号を指定するか、ページ番号で"-"（ハイフン）を挟み範囲を指定します。または、","（カンマ）を使ってこれらを組み合わせます。 例) ページ番号を指定：「1」、「999」 範囲を指定：「1-10」、「9-11」 組み合わせ：「1,3,9-11」、「20-29,5」
指定方法	正の整数 半角文字 (説明参照)
備考	印刷属性

引数属性名	印刷部数
識別子	-CP
説明	印刷部数を指定します。
指定方法	正の整数 半角文字 範囲：1～1000
備考	印刷属性

引数属性名	部単位
識別子	-CO
説明	部単位モードを指定します。
指定方法	<0,OFF>：部単位印刷しない <1,ON>：部単位印刷する
備考	印刷属性

引数属性名	面
識別子	-DU
説明	面指定をします。
指定方法	<0,NOME>：片面 <1,LONG>：長辺とじ <2,SHORT>：短辺とじ
備考	印刷属性

引数属性名	給紙トレイ
識別子	-FD
説明	給紙トレイを指定します。
指定方法	<p> <0,BOTTOM> : 最下部 <1,ENVELOPE> : 封筒用 <2,CAPACITY> : 大容量 <3,MAIN> : メイン <4,MANUAL> : マニュアル <5,MIDDLE> : 中央部 <6,SIDE> : サイド <7,TOP> : 最上部 </p> <p> XRF Readerでは上記の8つのトレイ以外にもプリンタ特有のトレイ番号を指定することが可能です。このトレイ番号を取得するには、XRF Readerを動作させ、印刷ダイアログで目的のプリンタを選択し、給紙トレイ欄に現れたトレイの番号を指定してください。尚この番号はXRF Readerが動作する環境に依存しており、プリンタドライバなどの変更、プリンタの環境の変更などによりトレイの値は変更されます。 </p>
備考	印刷属性

引数属性名	オフセット値
識別子	-OV
説明	出力方向を基準とした印字開始位置（左上）をmm単位で指定します（用紙向きに関係しない）。 X値とY値を","（カンマ）で区切り、ペアで指定します。
指定方法	小数2桁まで 半角文字 範囲：±50.00 単位：mm (説明参照)
備考	印刷属性

引数属性名	印刷倍率
識別子	-MG
説明	印刷倍率をパーセントで指定します。 指定時に"%"が付いていても許可します。
指定方法	正の整数 半角文字 範囲：10～400 単位：%
備考	印刷属性

引数属性名	カラーモード
識別子	-CM
説明	カラーモードを指定します。
指定方法	<0,MONO>：モノクロ印刷 <1,COLOR>：カラー印刷
備考	印刷属性

引数属性名	プレプリント印刷
識別子	-PR
説明	プレプリント印刷（データフィールドのみ印字）を指定します。
指定方法	<0,OFF>：プレプリント オフ <1,ON>：プレプリント オン
備考	印刷属性

9.2 終了値

9.2.1 XRFファイル印刷

xrfreader.exe は起動元に下記のステータスを返します。

エラー区分	エラー内容	終了値
すべて	—	0
共通部分全体	下記以外の共通部分で発生したエラー	-50
	データの生成でエラー	-51
	〈データの〉描画でエラー、印刷描画を含む	-52
	XRF解凍中のエラー	-53
データ	XRF内各データ内容が不正(パース、マップ)	-12
環境	設定ファイル不足	-62
	プリンタ/印刷障害	-63
	IOError	-64
	メモリ不足	-65
	常駐モジュールの終了要求受付	-67
	XMLファイル出力失敗	-70
内部処理異常	—	-14
監視プロセス起動エラー	設定ファイル読み込みエラー	-206
	ポート番号エラー	-92
	ポート監視設定エラー	-93
	通信時のIOError	-94
xrfreader.exe 内部エラー	監視ポート番号不正	-203
	常駐モジュールへ接続エラー	-204
通信エラー	常駐モジュールの通信初期化処理エラー	-213

9.2.2 ジョブファイル印刷

終了値は、ログに出力されます。

エラー区分	エラー内容	終了値
すべて	—	0
共通部分全体	XRF解凍中のエラー	-53
データ	XJFがない場合	-103
	XJFの内容が不正	-104
	ジョブ一時ファイル(XRF、xml)の入出力処理失敗	-105
	メモリの不足	-106
環境	設定ファイル不足	-62
	プリンタ／印刷障害	-63
	常駐モジュールの終了要求受付	-67
	ジョブエージェント設定ファイルのエラー	-100
内部処理異常	—	-90
		-101
		-102
		-200
通信エラー	常駐モジュールの通信初期化処理エラー	-213

10. その他の情報について

ここでは、その他の情報の参照先について説明します。

10.1 外字の扱いについて



- 外字の扱いについては、別冊『XRF ユーザーズマニュアル』の『4.4.1 外字の扱いについて』を参照してください。

10.2 外国語・多言語の扱いについて



- 外字の扱いについては、別冊『XRF ユーザーズマニュアル』の『4.4.2 外国語・多国語の扱いについて』を参照してください。

XRF Reader V3.8 操作マニュアル

2022年9月 第2版

発行：株式会社ユニリタ

〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟

Copyright © 2022 株式会社ユニリタ

本書は著作権上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、株式会社ユニリタから文書による許諾を受けずに、いかなる方法においても複写・複製・転載することは禁じられています。

改良のため、製品の仕様やデザインは予告なしに変更される場合がありますのでご了承ください。